

第 31 回健全財政推進区民懇話会 議事要旨

日 時：令和 3 年 3 月 29 日（月）14 時 30 分～16 時 30 分

会 場：区役所本庁舎 4 階 第五委員会室

出席者：座 長 白木 三秀 専門委員（早稲田大学教授）

委 員 棚橋 公夫 専門委員（公認会計士）

間瀬 恵二 専門委員（企業経営者：㈱不二製作所代表取締役会長）

横山 巖 専門委員（企業経営者：東工・バレックス㈱取締役会長）

江原 春美 区民委員

議事要旨：

1 開会

2 区長挨拶

3 白木座長挨拶

4 会議の公表について

・事務局より、議事要旨を公表したい旨を説明。各委員、了承

5 今後の施策と新年度予算について

・事務局より、令和 3 年度予算について説明

（主な質疑応答の内容）

●新設する産業経済部とはどのような部か。

⇒区の産業界の特徴を把握し、その活性化に向けより密接に関わっていくことを目的に新設する。

●SDG s は縦割りでは実現できないと思うが、どのように進めていくのか。

⇒各部の取組みを総合的にまとめ、効果的に発信していくためにSDG s 推進部を新設する。

⇒区長を本部長としたSDG s 推進本部も立ち上げ、区を挙げて推進していく。

●今後も区の収入が減ると見られるが、具体的な対策は。

⇒このまま成り行きで行くとどのような未来が待っているか共通認識を持った上で、明るい未来にしていくためにはどうしたらいいかを区民とともに考えていく。

●SDG s に力を入れることは、世界とのつながりを区民が意識することにもなる。今後もその点を意識した予算編成を行ってほしい。

●SDG s 実現に向けた施策としてまとめられている個別の施策は、今まで行ってきた施策だと思う。それらをSDG s という枠でまとめて、「いいとこどり」をしているという印象を受けた。

⇒区民向けアンケート調査の結果、「SDG s を知らない・聞いたことがない」という人が60%にのぼった。そのため、SDG s を知ってもらうための取組みを行っていきたい。そうした意味で、「いいとこどり」をしている。

●新年度予算に新型コロナ対策に係る施策が入っていないようだ。

⇒先を見通すことが難しい状況であるため、本区では補正予算や予備費で臨機応変に対応している。

●「世田谷区方式」、「練馬区方式」などのように、他自治体の名前が出ているニュースを見ると、江戸川区は何もやっていないのかと思うことがある。

⇒良い施策を実施していても、区民に伝わらなければ意味がないため、届くように努力していく。

6 令和3年度行政評価の実施スケジュールについて

・事務局より、令和3年度の行政評価の流れについて説明

7 共生社会推進条例案について

・事務局より、共生社会推進条例案について説明

(主な質疑応答の内容)

●「共生社会」という言葉がイメージしづらい。

⇒なじみのない表現だと思うが、「誰一人取り残さない」というSDGsの基本理念と、共生社会の理念は同じととらえ、SDGsを前面に取り組みを進め、区民がイメージしやすくなるようにしたい。

●どのような人たちがどのような生きにくさを抱えているのかを具体的に記載することで、そういった人が身近にいない人にとってもより理解しやすくなるのではないかと。

●「経済力」も障壁の一つではないか。「家庭の問題」もあるかもしれない。そうした人たちの能力が十分に発揮できるようにすることも必要ではないか。

●精神的に病気や障害を抱えた人も多い。そういう人たちに元気になってもらうことも「共生社会」の一つではないか。

●ひきこもりの人たちや、身体障害、知的障害、精神障害を持つ人などもある介護の問題や経済的な不安を持つ人も多いのではないかと。

⇒いただいたご意見も踏まえて策定を進めていきたい。

●良い条例である。ぜひ多くの方に読んでもらえるものにしてほしい。

⇒条例を制定して終わりではなく、その内容をわかりやすく伝える絵本を作成するなど、様々なプロモーションを行っていきたい。

8 共生社会ビジョン策定に向けた意見交換について

・事務局より、共生社会ビジョン策定に向けた意見交換について説明

(主な質疑応答の内容)

●テレワークの浸透は、江戸川区にとってプラスなのは。

⇒住めば「いいまちだ」と思ってもらえるが、「住んでみたい」と思ってもらえていないことが課題である。

- 土地が広く使えるなど、人口が減ることによる良い面もある。
⇒どのような未来を目指したいか、広報誌などを使って区民に広く意見を募る予定である。

- 水害などのリスクに対し、生活やビジネスの安全性を担保することが重要ではないか。
⇒現在、国や都と協力してスーパー堤防の整備や高台まちづくりを進めている。
⇒また、水害が起きても安心できるまちを実現する方法も考えており、今後もそうした取り組みを続けていく。

- 「(仮称) 共生社会ビジョン」は 80 年計画ということか。
⇒現在見えている中での 2100 年のビジョンということであり、時代の変化に応じた見直しを行うことも考えている。

- DX (デジタルトランスフォーメーション) が話題になっている。スマートフォンの登場により技術革新が起こり、日本が先進国でなくなったとも言える。そうした事実も、中小企業への啓発もかねて記載してはどうか。
⇒ICT の活用により、将来的に「来庁しなくてよい区役所」を目指している。
⇒また 2045 年には AI が人間の頭脳を追い越す、いわゆるシンギュラリティを迎えるとされており、そうした時代も間近であると考える。

- 共生社会ビジョンを作成する際には、目標を数量化できるかも検討してほしい。
⇒「(仮称) 共生社会 = SDG s ビジョン」においては、数値目標を設定する予定である。

9 意見交換

(主な質疑応答の内容)

- これまでごみの分別はさほど大きな課題として認識されていなかったが、今後非常に重要であるため、新たなビジョン・計画の中に取り入れてほしい。
⇒持続可能な社会を実現するためには環境面は大きなテーマであり、重要な視点である。本区では来年度、気候変動適応センターを設置し、脱炭素に向けた取り組みを進めていく。